

慢性腎臓病(CKD)診療ガイドライン作成の重要性

飯野 靖彦

慢性腎臓病(CKD)は新しい概念であり、原因を問わずに腎機能悪化あるいは形態的異常をもつ患者群を包括する概念である。この新しい概念の重要性は患者サイドの満足を中心にした考え方からと、医療経済的観点からの2面がある。とにかく、透析に至る患者の数の減少を目指すことは、患者のQOLからも医療経済的観点からも歓迎されることである。CKD患者数の減少を目的にしたときに重要なことは、

1) 正確な診断と stage 分類

2) 各々の stage に最適な治療方針(生活指導, 食事療法, 薬物療法)を明確にすること

である。この診断法, stage 分類, 治療方針をわかりやすく, 一般国民, 一般医, 専門医に共通の認識として理解してもらうことがCKD対策として根本的に必要である。そのために日本腎臓学会ではCKD診療ガイドライン(将来的にはエビデンスを集めてガイドラインとする)作成を喫緊の行動目標と考えている。2007年にはCKD診療ガイドを上梓できる予定で行動している。ただし, 重要なことは科学的エビデンスに基づいた(エビデンスがなければ一般的に受け入れられている事実の)診療ガイドにすること, 腎臓専門医のコンセンサスをを得ることである。コンセ

ンサスに関しては出版前に評議員にMLを通してコメントをもらい改訂する方針である。また, 一般国民, 一般医, 専門医に対する内容も対象によって変化させる必要がある。まず, 一般医に対するCKD診療ガイドラインを作成し, そのエッセンスをわかりやすくまとめて一般国民向けの小冊子も作成する予定である。

内容としては, CKDの定義から始まり, CKDの原因, CKDの疫学, CKDの位置づけ, 腎機能の評価法, CKDの診断, 検尿の重要性, 地域連携, インフォームド・コンセント, CKDの降圧療法, CKDの生活指導, CKDのフォローアップの仕方, FAQなどの項目を設けている。

作成されたCKD診療ガイドラインは低価格に設定して販売を行うことが基本であるが, 広く一般医に配布するために, 日本腎臓学会HPへの掲載, CKD講演会での配布, 医師会を通じての配布, 日本腎臓学会地区キーパースンを通じての配布, 医薬品メーカーの協力での配布, 都道府県担当課の協力での配布, 薬剤師会の協力での配布などを考えている。

CKD対策は日本腎臓学会の会員にとって一つの大きな転機となる事業であり, その中でもCKD診療ガイドライン作成はコアになる部分と認識している。